



本田 亮／著

## サラリーマン転覆隊が来た！

18.8 x 13.4 255頁 定価1,600円+税

発行所：(株) 小学館

〒101-8001 東京都千代田区一ツ橋2-3-1

TEL 03-3661-3681

ISBN978-4093-664615 2001年発行 Kindle版 2014年発行

【評者】 国崎クリーンセンター 啓発施設 所長 鈴木榮一 すずき えいいち

本田氏率いるサラリーマン転覆隊は、「旅」というよりも「冒険」に近く、氏の人生観に導かれた集団である。この著作のあと、転覆隊の名キャッチフレーズ「命の保証はない！感動の保証はある！」が生まれる。その原点ともいべきエピソードが本書にある。知人にこの著書を紹介したところ、カラー中表紙の「in the OFFICE」と「in the NATURE」の写真対比が転覆隊を象徴していると感じたようだ。私も同感だ。

著者の本田亮氏は、他書で「人の3倍働いて3

倍遊ぶ方法」を説いている。提言どおり、著者自身が、若い頃から超過酷な大手広告代理店でトップレベルの仕事をこなしつつ、長期休暇をとっては毎年のようにダイナミックな旅（冒険）を実践してきているのだから、絶大な説得力がある。

この著書から、なんとドキュメンタリードラマという新しいジャンルのシリーズTV番組が誕生した。しかも、本田氏は台本執筆から出演までこなすという離れ業で、サラリーマン転覆隊の真髄をテレビでも発揮した。



前田勇・佐々木土師二 監修，小口孝司 編集

## 観光の社会心理学 ひと、こと、もの —3つの視点から

A 5 254頁 定価2,400円+税

発行所：(株) 北大路書房

〒603-8303 京都市北区紫野十二坊町12-8

TEL 075-431-0361

ISBN978-4-7628-2496-8 2006年発行

【評者】 帝京大学 文学部 わたなべ こうへい 渡辺浩平

本書は観光社会心理学の教科書ともいえる内容で、全15章を15人の執筆者が担当している。「循環とくらし」本号で「旅するところ」を執筆いただいた橋本氏も本書の執筆者の一人である。観光学の対象は「もの」「こと」「ひと」であると言えるが、本書はゲストとホスト双方の「ひと」に軸足を置きながら、この3要素を網羅している。グリーンツーリズムの章、自然志向ツーリズムの章もあり、観光と環境を考える題材も豊富である。

評者がこの本に遭遇したのは「そもそも、人はなぜ旅をしたがるのだろうか」という疑問からだっ

た。人は旅によって何を満たそうとしているのか？それがわかれば、より環境や社会への負荷が少ない形で旅の満足感を得るあり方を提示できるのではないかと、という期待があった。読み進めてみると、ことはそう単純ではなかった。旅行者は多種多様であり、旅に関する志向も目的も異なるのだ。一概に解を示すのは無理だと改めて気づかされた。逆にいえば、この多様性があるからこそ、観光社会学によるアプローチが興味深く重要なのである。



チャールズ・モア、カッサンドラ・フィリップス／著、海輪由香子／訳  
**プラスチックスープの海** 一北太平洋巨大ごみベルトは警告する

368頁 定価1,900円+税  
発行所：NHK出版  
〒150-8081 東京都渋谷区宇田川町41-1  
TEL 03-3780-3319  
ISBN978-4-14-081560-1 2012年発行

【評者】(公財)東京都環境公社 東京都環境科学研究所 かとう加藤みか

海流の影響で漂流ごみが集まる「北太平洋ごみベルト」。著者チャールズ・モア氏がそこで発見したのは、さまざまなプラスチックが浮遊している「プラスチックスープ」であった。その面積は日本の国土の4倍程という。そのプラスチックをアホウドリなどの海鳥は、イカや小魚などの餌と間違えてひな鳥に与えてしまうのだ。さらに、風化で微小化したマイクロプラスチックは、浮遊中に海洋の有害物質を吸着し、魚や鳥に取り込まれ生物濃縮を起こしている。それは知らず知らずのうち私たちに...

本書では、グローバル経済における企業の体質を批判した上で、プラスチックに溢れた時代における消費者の意識の変革を求めている。「今」だけにこだわる使い捨て文化の拒絶といったR(Refuse(拒絶))が3Rより大事なのかもしいと言及している。モア氏は本書を「ラヴストーリー」でもあるという。海への深い愛情が原動力となり、自ら海洋調査財団を設立し、多くの関係者とのつながりを築きながら、科学的な調査活動を展開していくのである。このプロセスがとても興味深く、一気に読み進んでしまう本であった。



尾池和夫・加藤碩一・渡辺真人／著

## 日本のジオパーク～見る・食べる・学ぶ～

A 5 199頁 定価1,800円+税  
発行所：(株)ナカニシヤ出版  
〒606-816 京都市左京区一乗寺木ノ本町15  
TEL 075-723-011  
ISBN978-4-7795-05003 2011年発行

【評者】(一社)廃棄物資源循環学会事務局長 はやたてるのぶ早田輝信

今「プラタモリ」が面白い。溶岩とか褶曲とか理科では関心の低かった地学の世界と文化を結びつけた番組である。日本にはジオパークという地学で遊べる公園が14カ所(2016年9月現在で43地域)もある。恐竜のいた時代に思いを馳せたり、造山活動のダイナミックさを肌で感じたりと一日楽しめる。評者のお薦めは、恐竜の勝山、翡翠の糸魚川、高山植物のアポイ岳、を歩

いて健康増進を図るというものである。

本書には、日本海と日本列島の誕生も詳述されている。日本列島の岩石は、10億年前から、絶えず変動を繰り返し、絡み合い、ルービックキューブのような斑模様になっているとのこと。本書を抱えて、ジオパークを眼で見て、歴史の証拠を確認したいものである。